

県士会 ニュース

No.
225
[2024.2]



Kanagawa Association of Occupational Therapists — KAOT —

Contents

TOPIC

10「病院から退院した高齢者『その人らしい』生活ってなに?」に参加してみて

- 1 巻頭言
- 2 生活行為向上マネジメント (MTDLP) 推進委員会からのお知らせ

- 2 保険情報コーナー (第3回目)
- 3 絵本でみる作業療法
- 3 理事会議事録
- 8 ちょっと一杯どうですか
- 9 各部からの報告
- 10 事務局からのお願い
- 10 編集後記

巻頭言 |

神奈川県PTOTST士会合同事業「リハビリ手帳」のお知らせ
～トリプル改定・医療介護連携のツール
として2024年度から運用準備～



制度対策部 澤口 勇

明けましておめでとうございます。本年も益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、今年はトリプル改定の年でもあります。また地域包括ケアシステムの推進により、医療と介護連携および情報共有の重要性がさらに増しております。退院後も廃用性症候群や病状の悪化、フレイル状態の進行などなく、安心して地域・在宅生活を送れるよう、様々な分野で関わる、PT / OT / ST の取り組みとその情報を、切れ目なく、且つ分かりやすく他職種の方々に提供できる共有ツールの作成が必要となっていくことが予測されます。(※詳細は2ページ『保険情報コーナー』を見て下さい!)

そこで、2020年より神奈川県3士会合同にてリハビリ手帳について会議を開始し、2023年度春には試作版のリハビリ手帳を作成するに至りました。その後同年7月からはご賛同頂いた3士会会員所属施設のご協力の下、実際に試用して頂き、改善点などを伺うモニタリングを実施、その結果とアンケート内容を踏まえた最終修正版が2024

年度に完成予定です。そのあと完成版リハビリ手帳を県内へ普及・活用にて県民や医療・介護等関連他職種へ有益なリハビリ情報の共有を図っていきます。

2023年度も3月末まで残りあと1ヶ月。さらに完成度を高めるため、再度『アンケートの募集ならびにモニタリングの追加募集』を致します。神奈川県内に従事するPT/OT/STの方共通のアンケートならびにモニタリングです。特にOTの皆様のお力をお貸し下さい。分野も問いません。OTはフィールドが広いと、より多くのOTに参加して頂き、OTもしっかりと目を通したデータにしていきたいと思っています。よろしくお願い致します。モニタリング参加希望施設の方は、下記アンケート内にモニタリング参加希望の有無の項目がありますので、参加希望に「はい」とお答え下さい。返信メールを致しますので、連絡先アドレスの入力もお願いします。

2024年以降も高齢化の進展に伴い、疾病構造も変化し、これに併せて必要な医療・介護ニーズも変化していくものと思われます。よってOTも他職種との協働が必要です。最近「リハビリ専門職」との枠組みが行政や市民の間でも広く浸透してきました。POSと一緒に協働していく。その中でしっかりとOTの存在もアピールしていくことが大変重要だと思っております。

アンケート



リハビリ手帳サンプル



▲ PDF版

▲ ワード版

連載

生活行為向上マネジメント(MTDLP)推進委員会からのお知らせ ～ MTDLPいち推し ～

12月にMTDLP基礎研修会を開催しました。22名の方にご参加いただきました。理事である私も参加して受講しました。丸一日の研修で、最初90分の講義、その後は終了まで演習で、模擬事例に関してMTDLPで使用する各種シートに記載して行く演習です。ズーム研修でしたのでブレイクアウトルームを使用しながら、小グループでグループワークと発表を繰り返していきました。やっていく途中はわかりにくいところも（私には）ありましたが、終わってみると各演習がつながり、MTDLPの全体像が見えてきて、「なるほど、これは作業療法士の臨床思考そのものをツールにしてある」と思いました。またマネジメントツールとのことで、ただ作業療法の中だけのマネジメントではなく、支援チームをマネジメントするということで意図もあるとのこと、納得でした。

今月は21日に事例検討会を開催しています。この研修は、実際の事例にMTDLPツールを使用した実践を事例検討として発表、聴講するものです。発

表と言っても講師の鋭く優しい指導が特徴的です。報告に向けてそれを聴講するだけの参加でも構いません。また、ここで発表したあとは、MTDLP事例報告登録に進んでいただく流れです。登録できればMTDLPの指導者として講師となり、後進指導にあたります。

実は、この事例検討会は公式には決まった日に開催しますが、回数が少ないため、個別にも開催します。今月も一回あります。ご希望の方は県士会ウェブサイトをご覧ください。

今年度は、3月10日にもう一度MTDLP基礎研修があります。まだ申込み受付中です。県士会ウェブサイトをご覧ください。

では、新しい年を迎えました。春には新しい作業療法士たちがフレッシュな風を吹かせてくれます。もう少し寒いですが、春を待ちながら根を張りましょう。

（文責：生活行為向上マネジメント推進委員会 奥原 孝幸）

保険情報コーナー 第3回目

「6年に1度の同時改定・診療報酬・介護報酬・障害福祉サービス等報酬」 ～トリプル改定2024年・春がもうすぐやってきます！～

制度対策部 澤口 勇

県士会会員の皆さん、こんにちわ。制度対策部です。本コーナーでは「作業療法士に関わる諸制度（法律）」も含め、皆様のお役に立つ情報提供に努めております。

令和6年度は「トリプル改定（診療報酬・介護報酬・障害福祉サービス等報酬の3つが同時に改定）」ですが、どうしてこうも沸き立つのか、まずはその点から解説致します。報酬制度は、時代によって変動する社会や経済状況に応じるため、制度によって改定サイクル年数が決まっており、診療報酬は2年に1回で年度ごとに改定され、リハビリの評価も年々変わりました。介護報酬は原則3年に1回、障害福祉サービス等も3年に1回です。改定内容の検討はそれぞれ所管の審議会等で検討されるのですが、近年の社会は高齢社会の到来、障害者の社会参加の増大などケアニーズが多様化してきました。それぞれの改定サイクルだけでは、世代間をつなぐニーズの拡大や疾病構造の変化など、様々な社会課題に対処しきれません。逆に一度のタイミングで医療も介護も障害福祉等サービスも同時に改定できれば、諸制度の生産性が良いわけです。その6年に1度のタイミングが今回2024年です。2024年度の重要性が理解できましたか？

さて、紙面の都合もあり、今回は介護報酬分野からいくつか2024年度の改定内容（案）をご紹介します。①訪問リハ・通所リハに対し、退院時の情報連携促進の観点か

ら『入院中に医療機関が作成したリハビリテーション計画書を入力し、内容を把握する』ことを義務化 ②訪問リハ・通所リハに対し、リハビリテーション事業所等の理学療法士等が、医療機関の退院前カンファレンスに参加した場合、共同指導を行ったことを評価する新たな加算を設ける ③通所リハに対し、障害福祉サービスとの連携を強化し、障害者の身体機能・生活能力の維持・向上等に関する自立訓練（機能訓練）を拡充する観点から、共生型自立訓練（機能訓練）又は基準該当自立訓練（機能訓練）の提供が可能となることを踏まえ、自立訓練（機能訓練）の提供する際の人員及び設備の共有を可能とする。などです。この続きは、次号で…。

2024年度は、これだけではありません。政府の指針すなわち県市町の指針ともなる「第8次医療計画」「第9期高齢者福祉計画」「第7期障害福祉計画」なども同時スタートです。だからこそ、本年は特に上述のような横断的な施策も計画立案がなされたと理解できます。臨床現場からは地域の施策に関することは遠い話に感じる方も多いかと思いますが、会員は県市町の施設に従事しており、施されている作業療法が各報酬制度だけでなく、県市町の医療福祉計画ともリンクする必要があります。そして、2025年は地域医療構想年…これからくる荒波の中でリハビリ職はきちんと存在をアピールしていかなければなりません。



第7回

絵本でみる作業療法

「ぞうさん占い」の作業療法士は本当に結婚していた！

「絵本でみる作業療法」に「ぞうさん占い」という作品がある。ALS 患者が趣味である占いを通して生きがいを取りもどしていく物語だ。実際、私は当時付き合っていた妻との相性や入籍日などを占ってもらい結婚した。それ以来、私は占いが好きになった。今では手相や風水がみれる作業療法士を目指している。作業療法は患者だけではなく、作業療法士も変えるという。もしかすると 10 年後、私は占い師としてデビューしているかもしれない。(文責：清水 拓人)



県士会サイトも是非みてね！
<https://kana-ot.jp/wpm/p-book/>



理事会議事録

★ 2023 年度 第 2 回理事会 議事録 2023.7.20

日時：2023 年 7 月 20 日 (木) 19:00～21:34

場所：オンライン開催のため各自自宅・職場

出席理事：神保武則 (会長)、田中ゆかり (副会長)、吉本雅一 (副会長)、奥原孝幸、望月強併、遠藤陵晃、佐藤隼、澤口勇、山勢健太郎、青木啓一郎、佐々木秀一、野本義則、佐藤範明、神保洋平、金山桂、和田尚

出席監事：錠内広之、野々垣睦美

欠席理事：玖島弘規 (事務局長)、神田崇央

I. 会長より挨拶

OT の政治活動において協会や各県士会において知名度を上げるような働きかけが必要となってきます。改めて我々の活動を知って頂く宣伝に 1 つ足を踏み込んでいけたらと思っています。皆様のご意見を頂ければと思いますのでよろしくお願いします。

II. トピックス

1. 第 19 回神奈川県作業療法学会の進捗とインフォメーションについて

第 19 回神奈川県作業療法学会のプログラム完成。

項目は学会長講演、市民公開講座、教育講演、一般口述発表は 59 演題となっている。

現地開催プログラムは 10 月 15 日に茅ヶ崎文化会館で 10 時から行われる。

現地においては、学会長講演、市民公開講座、一般口述発表は現地で指定演題 5 演題、ビギナー発表 25 演題、特別講演 2 演題、シンポジウム、ワークショップはスプリント作成を予定している。

III. 報告事項 (各部署・理事・三役)

1. 事務局

- (1) 神奈川県在宅医療推進協議会リハビリテーション部会の委員の推薦 → 田中副会長を推薦

2. 福利部

- (1) 新入会員オリエンテーションについて
 - ・IMS 横浜国際看護専門学校 (2023.7.2) にて実施し、参加者 16 名、理事・監事 14 名の計 30 名であった。アナウンスが遅れて参加者がなかなか増えなかったため、次年度以降はアナウンスの時期を早めていく。

3. エリア化推進委員会

- (1) コネクトミーティングについて
 - 「新人教育について」をテーマに開催し、県内外から 6 名の参加があった。今後も他エリアで開催予定。

4. 地域リハビリテーション部

2023 年度第 1 回地域事業支援会議に出席。OT 協会は 23 年度で組織改編となり、地域振興部ができた。よんぱち委員会と同じ 10 の県と同じブロックとなり一緒に事業を進めていく。

5. 公益法人化対策委員会

神奈川県作業療法士会の公益法人化に関する理事アンケートを実施。アンケートの結果を踏まえ今年度中に方向性を決定することを目標とする。

IV. 審議事項

1. 部員承認

➡賛成多数で承認

2. 部員の退任

➡賛成多数で承認

V. 提案事項（各部署・理事・三役）

1. 第 20 回神奈川県作業療法学会の学会長の選出について
三役を中心に学会長の推薦、9 月末に選出、10 月の学会でご挨拶を頂く予定。

2. 当会の謝金規定に関する理事へのアンケートについて
謝金について理事へアンケートを実施した。結果はベースアップを中心に様々な意見が伺えた。今後、財務部理事の協力を仰ぎながら見込みを立てていく予定。

3. 県士会 4 ヶ年計画・組織改編について

会長挨拶、2021-2022 年度の県士会事業の達成状況、成長する県士会 4 年計画、課題共有の流れでスライドを作成した。また 2024 年度新組織体制へ移行していく。法人管理運営部門＋公益管理事業部門➡機能分化型。

成長戦略は生産性、独創性、協調性をキーワードに 100 年先の作業療法の未来を創るために進めていく。
上記内容で県士会ホームページへ掲載する予定。

VI. 【その他連絡事項】

制度対策部 澤口理事より

・災害対策シミュレーションを 9 月 25 日に開催予定。詳細は追って配信する。

VII. 【監事より】

野々垣監事：新理事体制となり新たな切り口で議論が進んでいた。今後も様々な視点で進めていてもらいたい。
錠内監事：継続理事においては、発言内容を端的に理事会がスムーズに進行するようお願いしたい。また新理事においては自部署だけでなく他部署のことにも関心をもって発言をしていただきたい。

（議事録作成者：玖島 弘規）

★ 2023 年度 第 3 回理事会 議事録 2023.9.16

日 時：2023 年 9 月 16 日（土）13：02～16：28
開催方式：ハイブリッド開催

場 所：現地）神奈川県横浜市中区真砂町 3-33 商業ビル「セルテ」8 階 801 会議室
オンライン）自宅・職場

現地出席理事：神保武則（会長）、田中ゆかり（副会長）、吉本雅一（副会長）、玖島弘規（事務局長）、奥原孝幸、望月強併、佐藤隼、遠藤陵晃、青木啓一郎、神田崇央、佐藤範明、神保洋平、金山桂
オンライン出席監事：錠内広之

欠席理事：佐々木秀一、野本義則、澤口勇、山勢健太郎、和田尚

欠席監事：野々垣睦美

その他出席者：兵頭夏海（事務局部員）、薄井文香（事務局部員）

【第 1 部】

I. 会長挨拶

先日、よんぱちの会議がありましたが神奈川県は全国に比べて会員数増加に向けた取り組みが先行しているように感じました。OT 協会の方で指針が出ていますが、会員数増加に向けた取り組みが多いです。将来に向けた県士会作りができるよう協力して取り組んでいきましょう。

II. 会長からの報告事項

1. 理事について

エリア化推進委員会の担当理事である和田 尚理事より体調不良を理由に理事を辞したいとの希望があった。

後任者が決まるまでは前任者が業務遂行することになっているが、エリア化推進委員会に前理事の大郷氏が在籍しているためサポートしてもらいながら全理事で対応していく。

今後の予定としては、2023 年 5 月の総会では役員選挙がないため、次の役員選挙までは現体制で運用していく。

III. 報告事項（各部署・理事・三役）

1. 広報部

（1）マイナビ進学ライブ 2023（横浜）の報告について
155 機関のブースがあり、社会人アドバイザーとして集まった。高校 1 年～3 年生 3000 人弱（親御さん含めて）参加。10 校はリハビリ関係の学校であり、参加者同士の情報共有が行えた。

2. 福利部

（1）小学生対象オンライン施設見学会について

昨年は中学生のみを対象に行っていたが、今年度は小学生 2 名、中学生 2 名の計 4 名参加して頂いた。オンラインで病院見学とソックスエイドの作成を行

い、楽しく行うことができた。

3. 制度対策部

- (1) 安否確認システムの運用訓練（災害対策事業班）について 9 月 25 日（月）に実施予定。

4. 学会評議委員会

- (1) 第 19 回県学会について

9 月 16 日時点で参加登録者 209 名（会員・非会員含めて）の申し込みがあり、ワークショップは 12 名参加予定。当日の会場スタッフは 31 名で対応予定となっている。

- (2) 第 6 回神奈川県臨床大会について

実行委員を選任しており人員が決まり次第、実行委員会を開いていく。

会場候補については、第一候補は海老名市民会館、第 2 候補は厚木市民会館で検討している。

5. 地域包括ケアシステム推進委員会

- (1) 「保健事業と介護予防の一体的実施」の横浜市のヒアリング実施について

8 月 8 日（火）16 時～17 時でヒアリングを行った。横浜市は保健事業と介護予防事業の一体化がされていない。今後、展開していくにあたり高齢者の一体的な事業をしていく。横浜市はフレイル予防に向けて進めていき、外出困難な方に保健師と一緒に訪問してほしい、外出できる人に向けて集団活動の場の提供を期待されている。OT・PT・ST 士会と一緒に取り組んでいく。

- (2) 2023 年度（令和 5 年度）訪問リハ・地域リーダー会議開催について

8 月 26 日（土）に開催され、高齢者の口腔に対して ST から共同事業について報告があった。またコロナ化によって勉強会もできず、質の担保が難しい状況。全都道府県で訪問リハ実務者講習会を行う予定。

6. 地域リハビリテーション部

- (1) 地域での介護予防イベントについて

8 月 26 日（土）に藤沢市の介護予防イベントにブースを出展し、部員 4 名と市内にいる作業療法士と協力して参加した。当日はパンフレットの配布やフレイルチェックを実施し、23 名の一般市民の参加があった。

7. その他部署からの報告

- (1) 選挙ワーキンググループ

選挙管理委員会と連携しながら活動している。

役員選挙に関するマニュアルや規約、内規についてアンケートを実施予定。代議員選挙の実施年であるため選挙の準備も進めていく。

【理事・三役】

1. 田中理事

- (1) 渉外報告：2023 年度第 2 回協会長及び士会長会

議（よんぱち）について

9 月 9 日（土）、10 日（日）に開催された。就労に対する OT の啓発をするため両立支援コーディネーター取得の推進を行っていく。また留学生の受け入れも再開しており、外国人に対するガイドライン策定に向けたアンケートを実施予定。「協会員＝士会員」実現に向けた検討委員会において、スケジュールを変更し 2027 年度の総会で定款規程の変更完了後、始動となる予定。各都道府県士会から多くの質問があり、OT 協会は 2 月には最終方策案を提示する予定になっている。

- (2) 謝金についての進捗報告

講師謝金について OT 協会も値上げをしており、今後、県士会の講師謝金の変更も検討していきたい。

2. 神保（洋）理事

- (1) 日本作業療法士協会生涯教育推進班より「新生涯学修制度」の概要について

8 月 29 日（火）にオンライン会議が開催された。その中で研修会について、座学研修が多いため実技の研修が不足しているとの話題が上がった。また OT を一般 OT → 登録 OT → 認定 OT → 専門 OT に区分する案も検討されている。

IV. 審議事項

1. 部員承認（事務局）

→賛成多数のため承認

2. 賛助会員 A への入会（事務局）

他県への転居に伴い、正会員から賛助会員 A への変更依頼 1 名

→賛成多数のため承認

3. 強制退会からの復会希望 1 名（事務局）

→賛成多数のため承認

4. 後援依頼（事務局）

- (1) 第 24 回医療・健康フェスティバル @神奈川県保険医協会

→賛成多数のため承認

- (2) 第 51 回車いす SIG 講習会 @車いす SIG

→賛成多数のため承認

- (3) 第 66 回日本病院・地域精神医学会総会神奈川大会

→賛成多数のため承認

- (4) 第 42 回神奈川県病院学会

→賛成多数のため承認

5. 最低賃金引き上げに伴う事務局員の賃金変更について（事務局）

10 月から神奈川県は最低賃金が 1070 円から 1112 円に引き上げになっている。それに伴い事務局員の時給を現行の 1080 円から 1120 円に改定したい。

→賛成多数のため承認

6. 研究助成事業班より（学術部）

2023 年度研究助成事業研究課題募集に対して 3 名の申請があった。

①出産・育児を経験した作業療法士が抱く「作業療法士観」構築の相互関係

研究代表者：甲本夏穂先生（国際医療福祉大学小田原保健医療学部、研究Ⅰ、23 年目）

②本邦の集中治療センターにおける作業療法教育に関する実態調査

研究代表者：駒場一貴先生（昭和大学藤が丘病院、研究Ⅰ、15 年目）

③シリコンインプラントを用いた乳がん再建手術後の新規作業療法プロトコルの開発

研究代表者：渡邊大貴先生（昭和大学藤が丘病院、研究Ⅱ、4 年目）

9/4 現在、書類審査および合議審査が終了し、3 名の申請者を内定した。

→賛成多数のため承認

7. 第 20 回県学会長について(学会評議委員会・神保会長)

2025 年度開催される県学会の学会長について 3 名に打診をさせて頂いた。その中で中西理佐子氏を推薦したい。

→賛成多数にて承認

【第 2 部】

Ⅰ. 2023 年度事業計画・中間評価について

1. 事務局

三役会・理事会の運営、会員情報の管理、社員総会の準備を進めていく。

事務局の課題として会員管理システム、会計システム、専門家の導入があり、会員管理システムは OT 協会の動き次第で変わってくるため動きを見据えながら進めていく。会計システムでは事務局員の増員が喫緊の課題。まずは事務局員 1 名の採用を検討中。専門家の導入では導入費用、新しい事務局の賃金に関して下半期で検討していく。会員情報の調査・追跡では会員管理システムをどのようにしていくか、ワーキングでも役割を考えながら進めていく。

2. 財務部

県士会の会計管理、予算案の立案等を進めていく。下半期に向けて 1 月から領収書をデータで残すことになっていくためそこに向けて準備を行っていく。会計システムの変更については下半期で検討予定。

3. 学術部

スキルアップ研修は今年度全 11 回を企画。現時点で 2 回実施済み。残り 9 回を順次実施していく。昨年度はオンラインのみの開催であったが今年度、1 回はハイブリット、1 回は対面で行っている。今後、講師謝金の増額が予想されるため開催回数も検討。今後はオンデマンドを利用して研修会のコンテンツを研修

会の財産として蓄積して構築していきたい。

研究助成事業について今年度からは若手で研究に興味のある方へ研修会の企画をする。

学術誌の刊行、オンラインジャーナルで 2023 年度は 1 論文を公開。現在も査読中であり決定すれば更新予定。査読者と編集部員を一般から募集中。来年度もオンラインジャーナル刊行継続と一般からの募集も継続。

研究倫理審査委員会の設置について、現在は情報収集のみとなっているため今後設置に向けて検討していく。

・査読者と編集部員の一般公募の条件について

正会員であれば問題ないとしているが、査読者に関しては修士号の取得や論文の実績があると良い。今年度の一般公募からの実績は編集委員が 4 名、査読者が 2 名の公募があった。

4. 教育部

生涯教育制度、現職者研修、臨床実習指導者講習会、事例登録制度の研修会を開催。募集期間が短くなっているところがあるためスムーズな運営ができるようにしていきたい。班編成を組んで部員と仕事を分配しながら仕事を進めていく。会員に積極的に研修会を受けて貰えるよう SNS アカウントでの情報発信も検討。

5. 広報部

ニュース班と対外広報班に分かれて活動を行っている。今年度 6 回の発行のうち 4 回を郵送する予定。

郵送を 3 回から 4 回に増やしたが費用は予算内で実施できている。郵送回数などは予算含めて検討していく。

また県士会ニュースの PDF 版を LINE で配信する案も頂いたが今後検討していきたい。

・対外広報について

県内養成校との連携では、今年度は協力して頂ける学校がさらに増えたため活動を継続していく。一方でかなり労力やマンパワーを感じるため理事や代議員などに協力を頂くのはどうか。

・未入会の方に向けた広報について

広報について検討中。どのように発信できるか検討しているため次年度に取り組みでいきたい。

6. 福利部

会員促進、福利厚生に繋がるような活動を実施。地域事業として、OT のリーダー・役職者・管理者向け研修、交流会を検討。参加者の意見を踏まえて 5 年目交流会やイクメン交流会などの交流の場も検討予定。

・LGBTQ の取り組みについて

現場レベルでの知識や情報が不足している実情があるため福利部の中でまずは知識をつけていくところから始める。

・子育て・介護時の継続した県士会活動への参加について

昨年度のミーティングから得られたことを生かして

今年度中に早急に企画実施を検討していく。

・夏休み中に実施したオンライン見学について

夏休みだけでなく冬休みや春休みも検討。対面についても検討予定。周知の遅れで参加者が少ない傾向であったため年間計画を通して参加者を増やせるような働きかけを行っていききたい。

7. 地域リハビリテーション部

人材育成研修や地域リハビリに関する研修会の開催、三団体協議会との情報交換を継続していく。また県、市区町村の地域・介護予防関連で連携・協力を図っていく。

8. 制度対策部

作業療法に関わる社会保障制度の情報収集と発信について、県士会ニュースへ情報コーナーを10月から創設する予定。2022年スタートの神奈川県保健福祉医療計画に着目して県のパブリックコメントに投稿できるように準備している。

下半期に向けて制度別にかかる会員数の母数の他に、所属する属性数の母数（精神科や回復期）など算出して事業に活用したい。現在、データがないが集まれば属性ごとにオンラインを活用して集まっても良いのではないかと検討している。福祉用具については福祉用具に関する相談窓口を作っていきたい。

自動車運転について、今期はシミュレーターに実際触れてもらうなど対面の研修ができないか調整している。神奈川県士会としては独自の取り組みとして県警との研修会も進めていきたい。免許センターに関しても窓口がないため県に対してのアピールも必要ではないかと思う。

9. 規約委員会

規程については適宜見直しが出来てきている。選挙管理規程や謝金規程の修正は今年度必要。

マニュアルの整備を進めるにあたり、アイデアがあれば助言をお願いしたい。

10. ウェブサイト管理委員会

現事業を中心に進めていく。県士会サイトの閲覧も減ってきているため、今年度からインスタなどの運用なども課題になってくる。引き続きインスタやX（旧ツイッター）の導入を進めていきたい。

11. 学会評議委員会

第19回県学会の運営サポートを中心に行っている。下半期は第20回の学会に向けて準備をしていく。

さらに第6回神奈川県臨床大会の大会長・実行委員長・部員も揃ってきており、会場を選出している。ホームページ、演題登録など参加の体制を整えていく。

また県学会・臨床大会のマニュアルの整備を進めていく。今後は学術部と協力して演題登録システムなど整備をして運営できるようにしていきたい。

12. MTDLP 推進委員会

下半期に向けて研修会を予定通りに進めていく。意識調査などのアンケートも検討中。推進の観点より、県士会ニュースの連載なども行っていきたい。

13. 認知症対策委員会

3つの事業を展開。下半期に研修会2回を予定している。関連団体への人材派遣検討をしているが人員が少ないことで派遣まではできていない。今後も連携を深めて行く。

14. 公益法人化対策委員会

公益化は、年度初めの理事会でご確認いただいた通り、その是非について情報収集と議論を行い、今年度中に結論を出すように進めている。各理事のご意見、財政との事業・運営における各部門の影響を総合的に考えて、県士会の目的に沿うような結論を位置付けるように進めていく。公益事業の拡大に関する予算についても検証されている。公益法人取得の是非に関わらず、県民の保健事業、福祉に寄与する事業を進める予定。内容をしっかり検討して進めていく。

公益化に関して今期はお金がいかにかかるか、メリットやデメリットがどうなのかを具体的に捉えながら本来目指す姿を検討して、将来に繋がる結論を出していく。意見には委員会だけで検討するのは大変ではないかとあるが、公益化の是非を委員会だけで検討するだけではなく理事にも実際に調査してもらうことも今後はあるかと思う。情報収集から行っていきたい。

15. 地域包括ケアシステム推進委員会

横浜市地域リハビリテーション活動支援事業や人材バンク設立へ継続的に取り組んでいく。

16. エリア化推進委員会

OTコネクトミーティングを2回、エリアミーティングを8回企画している。エリアによって参加人数が異なるが今年度は地域別に開催していく。地域支援活動助成金事業については検討中。

17. 選挙管理委員会

今年度は代議員選挙がある。事務局と連携しながら準備を進めていく。

Ⅲ. 神保会長より

長い時間お疲れ様でした。次年度に向けてのアイディアを共有できたかと思うので情報共有をしながら進めて頂けたらと思います。また本日は第20回県学会学会長を務めて下さる中西理佐子先生をお招きしました。

ご本人からご挨拶を頂きたいと思います。

中西学会長からご挨拶を頂いた。

（議事録作成者：玖島 弘規）

連載
RENSAI
COLUMN
コラム

ちょっと一杯 どうですか？

No.
19

「染まる実りの冬景色」

『おじちゃん』って近所の子供たちに呼ばれている私も、自宅近くの病院に勤務する作業療法士。病院では、誰から『〇〇先生』と呼ばれている。

“2023年でも色々あったなあ”、大きな柚子の樹の前にしてそう思った。今年も黄に映えた沢山の実が付いている。さてさて、高枝鉋で収穫することにしよう。ご近所にもお裾分け。

コロナがパンデミックとなり、国中を蔓延った時に、この連載が止まった。確か、日々N95マスクとアイガード、防護服を纏っていた頃だった。それから数年の月日が経ち、世の中は感染症の話題から、ロシアとウクライナ戦争やガザ地区ハマスとイスラエルの中東戦争へと変わってきた。その頃、日本ではハロウィンやクリスマス、忘年会や新年会で大忙し。遠い国の話だと言っても、日本に避難してくる外国の方々も大勢いるようだ。その支援にあたっている方から話を聞いた。「本当に酷い状況です。ガザから避難しているところで、子供たちの目の前で親が撃ち殺される。とにかく無差別に撃ち殺しているようです。正義も人権もない。本当に同じ人間同士が命を奪い合う悲惨な日常で、今回はその子供たちと親族を避難させたんですが、もはや現地は手が付けられない酷い状態のようで…」と。その支援者の仲介で彼らはアメリカ本土に送られた、とのこと。実に想像を超えるリアルな話で診療の手が止まったものだ。民間人の命を奪う戦いにメリットなど一つもない。国の抱える利権問題は人の命を犠牲にしてはいけない。早く終わりにして欲しいと願う。一方、我々日本国内の医療業界もトリプル改定を目前にあちらこちらで旗を立て、安定した医療／福祉／介護環境を望む声を上げている。日本の高齢社会をどう対処するかの見極めの時期かもしれない。

さて、みなさんにとっての2023年はどうでしたか。おじちゃんも“色々”ありましたね。

今回は、年末年始にちなんで「いろは」川柳風で2023年を締め括ってみようかと思います。みなさんはどんな「いろは」が浮かんできますか？

【い】いい仕事未病予防にOTの知恵。【ろ】論点をすり替えていても止めない上司。【は】はっとひらめく自励具かな。【に】日本で初のAPOTCは札幌開催です。【ほ】本当の価値はOT介入の後に分かる。【へ】平凡な暮らし

を望む対象者。【と】通りすがりに笑顔で挨拶を。【ち】地域のリハはOTだ。【り】臨床疑問をもって将来を磨くなり。【ぬ】ぬるま湯好きの部下に喝。【る】ルールの中にも柔軟性。【を】OTの歴史を学ぶと心豊かに変化する。【わ】分かっているつもりは分かってない。【か】カルテ入力も業務時間。【よ】養成校は神奈川県内8校です。【た】“単位単位”と言う部長。【れ】連携あつてのチーム医療。【そ】早期離床は予後良好。【つ】“妻のためなら”と汗流す。【ね】ネットで繋がる社会の限界。【な】なんでもかんでも責任転嫁。【ら】ラポール作りは上手です。【む】夢中になれるって素晴らしい。【う】初々しい姿はどこに新入職員。【お】いい酒が飲める仲間でOT談。【の】上り下りの人生も悪いもんじゃない。【お】お世話になった恩師に感謝。【く】苦労の一つ一つが財産となる。【や】ヤクルトで腸内細菌ダイエット。【ま】毎日が学びだと思えます。【け】見学・模倣・実施で大丈夫？【ふ】膨らむ夢を大切に【こ】高齢者は寄り添い学ぶ大先輩。【え】得るものがなければ探しに行きましょう。【て】出会いは思わぬ発見だ。【あ】アクティビティは笑顔作りに最良だ。【さ】残業を減らす努力はしております。【き】今日は明日への希望の標。【ゆ】勇気ある君の一言道開く。【み】見本と手本は違います。【し】実習で何を伝えるかがミソになる。【ゑ】絵に描く餅もユニークに。【ひ】微妙なセンスは隠し爪。【も】もしもの時のネットワーク。【せ】生活はまさに作業の連続です。【す】素敵なOTになりたいな。【ん】“ん、やっぱりOTが良い”とそう思う。今回も登場した“おじちゃん”。

OTを一生の仕事と決意し、長いOTの歴史と共に奮闘している“おじちゃん”です。あくまでもおじちゃん視点での作業療法学を織り交ぜた連載コラムです。面白エピソード満載です。次回もお楽しみに。

(文責：ペンネーム おじちゃん)



各部からの報告

▶ 学術部

学術部主催スキルアップ研修会（身障分野）
をオンラインで開催しました！（文責：高見澤 広太）

12月10日に国際医療福祉大学の牛腸昌利先生より「子どもの運筆支援における作業療法」をテーマにオンライン研修会を実施しました。県内・県外問わず50名を超える参加でした。運筆とは、すべての学習に関わる重要な活動であり、小学校ではタブレットが導入されているものの、依然として手書きが求められます。牛腸先生には、運筆に必要な能力や発達段階、把持形態や座位姿勢などの評価、補助具などの外的支援を活用した具体的な支援方法についてご説明いただきました。最後に、紙面への書字、デジタルへの書字、タイピングなど、学校での学習環境に適した作業療法評価や支援の提案が必要であり、グローバル化に伴う介入も重要であると学ぶ機会となりました。講師を引き受けていただいた牛腸先生に感謝いたします。



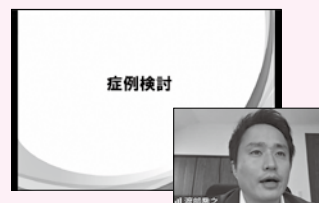
2023年度11月の学術部主催のスキルアップ研修会は『脳卒中患者の作業療法 脳画像から読み解く高次脳機能障害 ～症例検討から介入方法を考えよう～』を開催しました！

（文責：上野 和歌子）

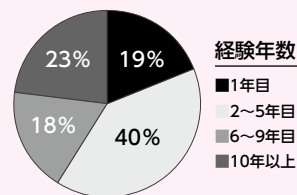
昭和大学横浜市北部病院の渡部喬之先生を講師としてお招きしました。高次脳機能障害について、病巣やメカニズムを整理しながら、具体的に臨床場面でみられる観察のポイントを細かくご説明いただきました。中でも実際の症例を通して、評価から介入までの流れを分かりやすくまとめて頂き、若手でも非常に理解しやすい内容でした。

参加者は1～5年目の若手セラピストが最も多かった一方で、10年目以上のベテランセラピストの内訳も20%以上を占めており、幅広い層の方々にご参加いただきました。

講師の渡部先生、そして参加者の皆様におかれましてはありがとうございました！今後も様々なスキルアップ研修を開催していきたいと思っております。皆様のご参加をお待ちしております。



【講義の様子】



【参加者の内訳】

▶ ウェブサイト管理委員会

県士会サイト スペシャルコンテンツ紹介

（文責：ウェブサイト管理委員会 佐藤 範明）

県士会サイトでは様々なコンテンツが存在していますが、そんな中でも「スペシャルコンテンツ」は様々な内容が盛り沢山です。今回はその内1つの【マンガでわかる はじめての学会発表】を紹介します。

本コンテンツは、“これから学会発表を考えている方”、を支援するために作りました。

このページでは新人さんにもわかりやすく、臨床研

究・学会発表のノウハウをマンガを交えてお伝えしています。全8話ですが、スラスラ読めちゃいます！イラストのみでなく、解説も記されており、大変わかりやすいです。

学会発表に挑戦したいけど、一歩が踏み出せない、まずは何から初めてよいかわからない方は是非一度コンテンツを開いて頂き、一読ください。

図)【マンガでわかる はじめての学会発表】閲覧方法（スマホ Ver.）



▶地域リハビリテーション部

「病院から退院した高齢者『その人らしい』生活ってなに？」に参加してみて

(文責：宮本 啓太)

2023年11月28日19時より2023年度、第一回地域ミーティングが6実施されました。平日の夜にも関わらず、60名以上の参加者がありました。今回は「病院から退院した高齢者『その人らしい』生活ってなに？」を主題とし、神奈川県作業療法士会地域包括ケアシステム推進委員会の班長であり、横浜市を中心に地域リハビリテーション活動支援事業に取り組んでいる西川航平先生にご講義いただきました。

講義内では退院後の「その人らしさ」を考えながら生活をするということについて話を頂き、その中で対象者が通いの場などでその人らしい生活をしていること、その通いの場に作業療法士が関わっていることを例にして、作業療法の支援の実際をご紹介いただきました。

西川先生が行った介入例では、グループに対し、評価、課題の抽出、メンバーの役割分担、活動のマンネリ化を改善するための助言や評価など、グループ参加者が自身の活動を客観的に捉える機会の提供が行われていました。通いの場への支援では作業療法士は対象者へ直接介入するだけでなく、参加者主体のグループ活動をコンサルタントする視点・介入

が重要であることを学ぶことができました。地域高齢者の『通いの場』という社会参加の支援を通じて、臨床現場でも生活期における「その人らしい生活」を考えていくためのヒントにつながるようなお話でした。近年、コロナ禍でリハビリテーション活動支援事業が減少していましたが、作業療法士の依頼される件数が再び増加傾向であり、その半数以上が通いの場の支援となっています。人・環境・作業を分析する作業療法士の視点が地域社会でも期待されています。

グループワークでは「その人らしい生活」を意識して、普段取り組んでいることについて、マンダラチャートを用いてディスカッションをしました。様々な領域で働いている参加者の方々と地域支援の経験等も踏まえて話すことで考えを深めることができました。

今回の研修会は他県士会、普段は主に行っている領域が様々で勤務している方にご参加いただきました。各領域共通で作業療法士がその人らしさを意識し、大切にしたいと取り組んでいる様子が垣間見える素敵な研修会となりました。

事務局からの お願い

- 届出内容を変更される方** 住所・勤務先・氏名・送付先等の変更がある方は、『登録内容の変更届』を ①郵送 ②FAX ③電子メール (kaiin@kana-ot.jp) にてご提出願います。(随時受付)
- 休会される方** 来年度に休会予定の方は、前年の**12月31日**(末日消印有効)までに ①『休会届』と ②『証明書』を郵送でご提出願います (**FAX不可**)。
- 退会される方** 年度内に退会予定の方は、**3月15日**までに『退会届』を ①郵送 ②FAX ③電子メール (kaiin@kana-ot.jp) にてご提出願います (**上記日必着**)。

届出書類は、神奈川県作業療法士会ホームページ公式**ウェブサイト**のINDEXより、ダウンロード可能です。なお期日までに提出いただけない場合は、次年度の会費が自動引落としとなり、返金を致しかねます。

編集 後記

県士会ニュースをお読みいただきありがとうございます。執筆にあたり、最新の情報を取り入れ、わかりやすく伝えることに注力しました。読者の皆様に有益な情報を提供できれば幸いです。今後もより良いコンテンツをお届けできるよう努めてまいります。

(ゆず)

一般社団法人 神奈川県作業療法士会ニュース 〈225号〉2024年2月発行(年4回発行)

発行責任者 神保 武則

編集責任者 金山 桂

編集担当 出口 弦舞(国際医療福祉大学 小田原保健医療学部 作業療法学科)

山岡 洸(湘南慶育病院)／佐藤 愛(悠の木株式会社)／丸岡 ちひろ(済生会横浜市東部病院)

松井 洋鷹(浏野辺総合病院)／碓屋 瑛理(佐藤病院)／岩居 洋輝(佐藤病院)

印刷 発送 株式会社高陽印刷所

事務局 〒231-0011 横浜市中区太田町 4-45 第一国際ビル 301 号

TEL/FAX : 045-663-5997

月火水木金 10:00~15:00

メールアドレス : jimu@kana-ot.jp

一般社団法人 神奈川県作業療法士会ウェブサイト

<https://kana-ot.jp> ➡ 作業療法 神奈川 検索

Facebook

<https://www.facebook.com/kaotwebkan>

Twitter

<https://twitter.com/kaotwebkan>

